



記者手帳

産廃の選別・リサイクルが進むほど、

最後に残った物は質が悪くなり、再生利用が困難である場合が多い。例えば、あらゆる手法、技術を駆使しても単一素材に分離することが不能な複合材、再生利用方法が確立されていない脱水ケーキな

どが該当してくる。

また、焼却処理後に発生する焼却灰、ばいじんも最終処分率が高いと考えられる。廃石綿、廃石綿

ていない業者は、いかに安価な処分ルートを持っていくか、手元に残る利益を左右する。

金融不況が急速に拡大するなか、この最終処分場に絡んだ詐欺事件や未遂事件

ていけば、その社長は大変な損害を被っていたところだ。

また、最終処分場の売り込みに関する詐欺も横行している。「許可承継手続きで譲る」などといった触れ込みで、こ

憎むべききつうまい話

含有廃棄物も再生利用には馴染み難い。

そのような背景から、未だに最終処分施設へのニーズは高く、保有していることが業者としての強みにもなる。保有し

が各地で頻発している。先日、本紙の記者が取材先企業の社長から聞いた話。ある

やにわに「A社の最

あり、きつぱりと断った。編集部がA社に確認すると「そんなチケツトは販売していない」この返答。

これは未遂に済んだので良かったのだが、もし引かなかった

憎むべき悪行。不況の最中、懸命の営業を積み重ね、やっとの思いで出した利益を奪い取る。「うまい話」には、まず疑うことをお勧めしたい。

(患)